

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

## 25 帰宅困難者への支援を行っている例 / その他の事例

## 1. インフラ関連事業者

2.

3.

4.

## 分散保管、集中保管とを組合せた備蓄品配置計画

鹿島建設株式会社

事例番号 198

■業種：建設業

■取組の実施地域：東京都

- 鹿島建設株式会社では、帰宅困難時用の水や食料を3日分備蓄しているが、1日目の分を各職場に分散保管し、2～3日目の分を倉庫に集中保管することとした。分散保管を採用することにより、各職場において帰宅困難者が発生した場合においても、初日から備蓄品を移送・配布する必要を無くすることができる。
- 逆に、遠隔地で災害が発生した場合、分散保管のみの場合、備蓄品を被災地に送ることに大きな手間がかかるが、一部倉庫に集中保管しておくことで効率性も確保することができる。
- 事業所内部への備蓄品の配布等内向きの作業を極力減らし、道路啓開など建設会社としての使命を果たすことに資源を集中することを目指している。